

2020年、世界は誰も予想できなかった状況にある。

多くの人命が失われ、経済活動は停滞。

当面、世界はかつてないパンデミックの影響下にあり続ける。

ウイルスとの共存 = 「ウィズコロナ」の時代。

国民の生命、生活、経済、雇用を守るため、

感染拡大防止と経済活動の両立に万全を期す

とともに

事態悪化時にも耐えうる体制を整える 必要がある。

～ 対応の方向性 ～

〈凡例〉

- 国・自治体への要望
- 経済界自身のアクション
- ◆ 官民共同での取り組み

(1) 感染拡大防止に向けた体制整備

① 医療提供体制の整備

- 緊急時の役割分担、情報の一元管理
- 科学的研究の推進
- データ収集・活用基盤の整備

② 医療物資供給の確保

- 備蓄、増産スキーム、国内生産能力確保等の供給維持策の再検討

③ 検査体制の拡充

- 大規模な感染拡大も見据えた体制強化
- 唾液検体、抗原検査等を活用した最大限効率的な検査体制の構築

④ 国境を越えた人の往来への対応

- 早期の出入国再開
- デジタル化等を通じた効率的で一貫性ある出入国手続（陰性証明の取得、健康状態フォローアップ等）の整備
- グローバルな経済活動再開に向け、社内診療所の活用等も含め協力

⑤ 緊急事態における司令塔機能強化

- 非常時の権限集中、専門家によるバックアップ体制、国と自治体の関係、自粛要請と補償のあり方、強制力を伴う要請の範囲拡大等について検討

⑥ ワクチン・治療薬の開発

- ◆ 産学官医一体で研究開発・製造の基盤を整備
- 知見を各国で共有し、全世界でワクチン・治療薬を早期承認できる体制を構築

(2) BCPの強化

- 安全保障の観点から必要な物資の調達、他国との相互融通について検討
- サプライチェーンの多元化・強靱化検討
- 今般のパンデミックを踏まえ、複合災害の発生も念頭にBCPを再検討

(3) デジタル化の推進

- 教育、医療、行政等のデジタル化を国のイニシアティブで加速
- ◆ デジタル技術活用が広がった現状を好機とし、DXを通じた強靱な社会を構築
- 柔軟な労働時間管理、メンバーシップ型・ジョブ型雇用の最適な組合せ、採用、教育・人材育成のあり方等の検討・発信を継続

パンデミックの端緒から今日までの数か月で社会全体が大きく変化し、

わが国の課題と可能性の双方が浮き彫りとなった。

経団連は、活力ある日本経済を取り戻すため力を尽くしていく。